

Stay Hungry, Stay Foolish

スティーブ・ジョブズ

伝説のスタンフォード大学スピーチ

CNN Our breaking news tonight, Steve Jobs dead at the age of 56. He once recruited a top executive to Apple by asking him, “Do you want to spend the rest of your life selling sugared water, or do you want to change the world?” Whether it came to products or words, Steve Jobs had the touch. That way...that way with words held true over the years, including this moment speaking to graduates at his hometown university, Stanford.

stay:

《タイトル》～のままている、～の状態にとどまる

hungry:

《タイトル》飢えた、強く求めている

foolish:

《タイトル》愚かな、分別のない

breaking news:

臨時ニュース、ニュース速報

dead at the age of:

～歳で死んだ、亡くなった

once:

かつて、あるとき

recruit:

～を雇い入れる、スカウトする

top executive:

最高幹部、経営首脳

spend...doing:

…(時間)を～して過ごす、～するのに…を費やす

the rest of one's life:

余生、これからずっと

sugared water:

砂糖水

it comes to:

～のことになる、～に関して言う

product:

製品、生産品

have a/the touch:

才能がある、こつを心得ている

hold true:

当てはまる、同じことが言える

including:

～を含めて、～などの

moment:

短い時間、時点

graduate:

卒業生、学士

hometown:

地元の、故郷の

CNN 今夜の臨時ニュースです。

スティーブ・ジョブズ氏が56歳で亡くなりました。ジョブズ氏はかつて、アップル社に経営トップをスカウトするにあたり、「君はこれからずっと砂糖水を買って過ごしたいのか、それとも世界を変えたいのか」と尋ねて口説きました。製品に関してであれ言葉に関してであれ、スティーブ・ジョブズ氏は優れたセンスを持っていました。そうした面は……言葉に関しての彼のそうした面は長年にわたって見受けられましたが、その例としてこれからご紹介するのは、彼の地元のスタンフォード大学で卒業生に向けて行ったスピーチです。

ひとつ目は点と点をつなぐ話

Thank you. I'm honored to be with you today for your commencement from one of the finest universities in the world. Truth be told, I never graduated from college and this is the closest I've ever gotten to a college graduation.

Today I want to tell you three stories from my life. That's it. No big deal. Just three stories.

The first story is about connecting the dots.

I dropped out of Reed College after the first six months but then stayed around as a drop-in for another 18 months or so before I really quit. So why did I drop out?

be honored to be:
~であることを光栄に思う
commencement:
卒業式、学位授与式
fine:
①優良な、素晴らしい
②元気な
truth be told:
実をいうと、実のところ
graduate from:
~を卒業する
get close to:
~に近づく、接近する
graduation:
卒業

That's it:
ただそれだけだ、それでおしまいだ
no big deal:
大したことではない

connect the dots:
点と点を結ぶ、点を結んで全体像を描く

drop out of:
~を途中で辞める、中退する
stay around:
留まる、そばにいる
drop-in:
ふらりと聴講に来る人、モグリの受講者
or so:
…かそこら、…ぐらい
quit:
辞める、退学する

ありがとうございます。今日は、世界最高の大学のひとつで卒業式を迎えられる皆さんと一緒にできて、とても光栄です。実のところ、私は大学を出ていません。ですから、これが、私にとっては大学卒業に最も近い経験ということになります。

今日、皆さんにお伝えしたいのは、私の人生に基づく3つのお話です。それだけです。大したことではありません。たった3つのお話です。

最初のお話のテーマは、点と点を結ぶことです。

私はリード大学を最初の半年で中退しましたが、その後も18カ月ほどはモグリの学生として大学に居座り、それから実際に退学したのです。だとしたら、私はなぜ中退したのでしょうか？

私の人生の始まり

It started before I was born. My biological mother was a young, unwed graduate student, and she decided to put me up for adoption. She felt very strongly that I should be adopted by college graduates, so everything was all set for me to be adopted at birth by a lawyer and his wife, except that when I popped out, they decided at the last minute that they really wanted a girl. So my parents, who were on a waiting list, got a call in the middle of the night asking, “We’ve got an unexpected baby boy. Do you want him?” They said, “Of course.”

My biological mother found out later that my mother had never graduated from college and that my father had never graduated from high school. She refused to sign the final adoption papers. She only relented a few months later when my parents promised that I would go to college. This was the start in my

biological mother:

生物学上の母親、生みの母

unwed:

未婚の、結婚していない

graduate student:

大学院生

decide to do:

～することを決意する、決断する

put A up for B:

AをBの候補とする、候補として出す

adoption:

養子縁組

feel that:

～であると感じる、思う

adopt:

～を養子にする

college graduate:

大学卒業生、大卒者

be set for...to do:

…が～できるように準備が整っている

at birth:

出生時に、生まれた時点で

lawyer:

弁護士

except that:

～ということがなければ、ただし～であるが

pop out:

飛び出す、生まれ出る

decide that:

～であると判断する、～であるという結論を下す

waiting list:

待機リスト、順番待ちの名簿

get a call:

電話を受ける

unexpected:

予期しない、予想外の

find out that:

～であると分かる、知るに至る

refuse to do:

～することを拒否する、断る

sign:

～に署名する、サインする

paper:

文書、書類

only:

やっと、ようやく

relent:

態度を和らげる、気持ちがほぐれる

promise:

～を約束する

始まりは私が生まれるよりも前でした。私の生みの母は、若い未婚の大学院生だったため、私を養子に出そうと決心したのです。彼女がこだわったのは、私の養子先は大卒者の家庭でなければ、ということでした。それで、私が生まれたらすぐ弁護士夫婦に引き取られるよう、準備万端整えられていたのです。ところが、いざ私が生まれたときに弁護士夫婦が土壇場で下した判断は、自分たちが本当に欲しいのは女の子だ、というものでした。それで、養子待ちのリストに載っていた私の両親が真夜中に電話を受け、「こちらに予定外の男の赤ちゃんがいます。希望されますか」と聞かれたのです。両親の答えは、「もちろん」でした。

生みの母は、私の母が大卒ではなく父は高校すら出ていないということ、後から知りました。彼女は養子縁組の最終書類に署名することを拒否しました。彼女がようやく折れたのは、数カ月後、私を大学に行かせる両親が約束したときでした。これが、私の人生の始まりだったのです。

life.

大学中退を決断した

And 17 years later, I did go to college, but I naively chose a college that was almost as expensive as Stanford, and all of my working-class parents' savings were being spent on my college tuition.

After six months, I couldn't see the value in it. I had no idea what I wanted to do with my life, and no idea how college was going to help me figure it out, and here I was, spending all the money my parents had saved their entire life. So I decided to drop out and trust that it would all work out OK.

It was pretty scary at the time, but looking back, it was one of the best decisions I ever made. The minute I dropped out, I could stop taking the required classes that didn't interest

naively:
無邪気に、世間知らずにも
almost:
ほとんど、ほぼ
expensive:
費用のかかる、高額
working-class:
労働者階級の
savings:
ためた金、貯金
spend A on B:
AをBに費やす、使う
tuition:
授業料

value:
価値、値打ち
have no idea:
まったく分からない、見当もつかない
help...do:
…が～するのを手伝う、…が～するのに役立つ
figure...out:
…の答えを見つけ出す、…を解明する
save money:
貯金する、お金をためる
entire:
全部の、全体の
trust that:
～であると信じる
work out:
結局～になる、～という結果になる

scary:
恐ろしい、怖い
looking back:
振り返ってみると、今になって思うと
required class:
必須科目、必修科目
interest:
～の興味を引く

そして17年後、私は本当に大学に入学しました。しかし、世間知らずな私が選んだのは、スタンフォード並みに学費の高い大学だったので。そのため、労働者階級である両親の蓄えは、私の学費の支払いですべてなくなってしまいそうでした。

6カ月後、私は大学に価値を見いだせずにいました。自分が人生でやりたいことは何なのかさっぱり分かりませんでしたし、その答えを見つけるうえで大学がどう役立つのかもまったく分かりませんでした。それなのに、自分はそのにいて、両親が生涯をかけて蓄えたお金をすべて使い切ろうとしていたのです。それゆえ私は中退の決断をしたのですが、それですべてがうまくいくと信じていました。

そうした決断をすることはそのときはかなり恐ろしかったのですが、振り返ってみると、これまでに下した決断の中でも最良のもののひとつでした。中退した途端、興味を持っていない必修科目は取るのをやめて、も

me and begin dropping in on the ones that looked far more interesting.

drop in on:
～の聴講にふらりと来る、
～をモグリで受講する
far more:
はるかに多く、もっとずっと

好奇心と直感に従って出会ったものの大切さ

It wasn't all romantic. I didn't have a dorm room, so I slept on the floor in friends' rooms. I returned Coke bottles for the five-cent deposits to buy food with, and I would walk the seven miles across town every Sunday night to get one good meal a week at the Hare Krishna temple. I loved it. And much of what I stumbled into by following my curiosity and intuition turned out to be priceless later on. Let me give you one example.

romantic:
物語のような、夢のような
dorm:
= dormitory 学生寮、寄宿舎
deposit:
手付け金、預け金
Hare Krishna:
ハレークリシュナ
▶米国などで活動する新興宗教団体「クリシュナ意識国際協会」の俗称。
stumble into:
～に偶然出会う、遭遇する
curiosity:
好奇心
intuition:
直感、直感力
turn out to be:
結局～であると分かる
priceless:
金で買えないほどの、非常に価値のある
later on:
後で、後になって

Reed College at that time offered perhaps the best calligraphy instruction in the country. Throughout the campus every poster, every label on every drawer was beautifully hand-calligraphed. Because I had dropped out and didn't have to take the normal classes, I decided to take a calligraphy class to learn how to do this. I learned about serif and sans-serif typefaces, about varying the amount of space between different letter combinations, about what

offer:
～を提供する
calligraphy:
書道、カリグラフィー
instruction:
教授、教育
throughout:
～の至る所に
drawer:
引き出し、戸棚
hand-calligraphed:
書道式に手書きされた
typeface:
書体
vary:
～を変える、変化させる
the amount of:
～の総計、総量
letter:
文字
combination:
組み合わせ

っとはるかに面白そうな科目にもぐりこむことができるようになったからです。

夢のようなことばかりとはいきませんでした。私には寮の部屋もありませんでしたから、いろいろな友人の部屋で床に寝ていました。コカ・コーラの瓶を店に返して預け金の5セントを戻してもらい、それで食べ物を買うということもしました。また、毎週日曜の夜には、7マイル(約11.3キロメートル)歩いて町の向こうまで行き、ハレークリシュナ寺院で週に一度のご馳走にありついたので、あれは大好きでした。そして、好奇心と直感に従うことで出会ったものの多くは、後になって、掛け替えのないものだと分かりました。一例をご紹介します。

当時のリード大学は、おそらく国内最高といえるカリグラフィー教育を提供していました。キャンパスの至る所に見られるポスターのどれもが、戸棚ひとつひとつに貼られたラベルのどれもが、美しいデザインの文字で手書きされていたのです。私はすでに中退していて普通の授業を取る必要はありませんでしたから、カリグラフィーの授業に出て、そのやり方を身につけようと心に決めました。セリフやサンセリフといった

makes great typography great. It was beautiful, historical, artistically subtle in a way that science can't capture, and I found it fascinating.

typography:
文字組み、タイポグラフィ
artistically:
芸術的に、芸術上
subtle:
緻密な、繊細な
capture:
~をとらえる
fascinating:
魅惑的な、興味をそそられる

10年後によみがえった記憶

None of this had even a hope of any practical application in my life. But 10 years later when we were designing the first Macintosh computer, it all came back to me, and we designed it all into the Mac. It was the first computer with beautiful typography.

hope:
見込み、望み
practical:
実際の、実用上の
application:
適用、活用
design:
~をデザインする、設計する
come back to:
~に思い出される、~の脳裏によみがえる

If I had never dropped in on that single course in college, the Mac would have never had multiple typefaces or proportionally spaced fonts, and since Windows just copied the Mac, it's likely that no personal computer would have them. If I had never dropped out, I would have never dropped in on that calligraphy class and personal computers might not have the wonderful typography that they do.

multiple:
多様な、複数の
proportionally spaced
font:
プロポーショナルフォント
▶どの文字も左右幅が同じ等幅フォント (fixed-width font) に対し、文字ごとに適した幅でデザインされたフォントを指す。
copy:
~をコピーする、まねる
it is likely that:
~ということになりそうだ、~であることが起こりうる
personal computer:
パーソナルコンピューター、パソコン
▶複数形は通常 personal computers。ただし、まれに personals computers ということもある。

書体について学びましたし、いろいろな文字の組み合わせに応じて字間スペースを変えるやり方や、素晴らしいタイポグラフィを素晴らしいものたらしめているのは何か、といったことについても学びました。それは美しく、歴史があり、科学がとらえきれないような芸術的繊細さを宿したものです。ですから、私はそれに強く惹かれました。

それを人生で実際に役立たせたいなどとは、まったく思っていませんでした。しかし10年後、われわれが最初のマッキントッシュ・コンピュータを設計しているときに、それが一気に私の脳裏によみがえってきたのです。そこでわれわれは、設計段階で、そのすべてをマックに取り込みました。マックは、美しいタイポグラフィを備えた初めてのコンピューターになったのです。

もしも私が大学であの授業にもぐりこんでいなかったら、マックが複数の書体やプロポーショナルフォントを持つことはなかったでしょう。それに、ウィンドウズはマックをまねただけですから、パソコンがそれらを持つこともなかったらと思います。もしも私が中退していなかったら、あのカリグラフィーの授業にもぐりこむことはなかったでしょうし、パソコンが現在のよう素晴らしいタイポグラフィを備えることもなかったかもしれません。

もちろん、私が大学生だったころは、

点と点がやがてつながると信じよう

Of course it was impossible to connect the dots looking forward when I was in college, but it was very, very clear looking backwards 10 years later.

Again, you can't connect the dots looking forward. You can only connect them looking backwards, so you have to trust that the dots will somehow connect in your future.

You have to trust in something—— your gut, destiny, life, karma, whatever——because believing that the dots will connect down the road will give you the confidence to follow your heart, even when it leads you off the well-worn path, and that will make all the difference.

look forward:
前方を見る、将来に目を向ける
clear:
はっきりした、明確な
look backward:
後方を見る、過去を振り返る

somehow:
どうにかして、何らかの形で
connect:
つながる、結びつく
in one's future:
将来において、将来的に

trust in:
~を信じる、信頼する
gut:
勇気、根性
destiny:
運命、宿命
karma:
(仏教、ヒンズー教の) カルマ、因縁 (いんねん)
whatever:
何でも、どんなものでも
down the road:
先々、将来いつか
confidence:
確信、自信
follow one's heart:
自分の心に従う、心の命ずるままに行動する
lead A off B:
AをBから離れさせる、Bとは違う方向に導く
well-worn:
月並みな、陳腐な
path:
(人生の) 道筋、生き方
make all the difference:
大きな違いをもたらす、大きな変化を生じさせる

もちろん、私が大学生だったころは、将来を見据えながら点と点を結ぶということなどできませんでした。しかし、10年経ってから振り返ってみると、とてもとてもはっきり見えました。

もう一度言いますが、将来を見据えながら点と点を結ぶということなど、皆さんにはできません。できるのは、振り返りながら点と点を結ぶということだけです。ですから、皆さんは、点と点が将来何らかの形でつながると信じるしかないのです。

皆さんは何かを信じるべきです——自分の勇気であれ運命であれ、人生であれカルマであれ何であれ——なぜなら、点と点が将来いつかはつながると信じることで、たとえそれが人並みの人生街道から外れることにつながろうとも、自分の心に従うことに自信が持てるようになるからです。そして、このことがもたらす違いは大きいのです。

ふたつ目は愛と失意の話

My second story is about love and loss.

I was lucky. I found what I loved to do early in life. Woz and I started Apple in my parents' garage when I was 20. We worked hard, and in 10 years, Apple had grown from just the two of us in a garage into a \$2 billion company with over 4,000 employees. We'd just released our finest creation, the Macintosh, a year earlier, and I'd just turned 30, and then I got fired. How can you get fired from a company you started?

Well, as Apple grew, we hired someone who I thought was very talented to run the company with me, and for the first year or so, things went well. But then our visions of the future began to diverge, and eventually we had a falling out. When we did, our board of directors sided with him, and so at 30, I was out, and very publicly out. What had been the focus of my entire adult life was gone, and it was devastating.

loss:
喪失感、虚しさ

love to do:
～したい、～するのが大好きだ

Woz:
= (Steve) Wozniac (スティーブ・) ウォズニアック
▶アップル社の共同創業者のひとり。

garage:
車庫、ガレージ
grow from A into B:
AからBへ成長する、大きくなる

billion:
10億
employee:
従業員、社員
release:
～を発表する、発売する

fine:
上質の、優れた
creation:
創作物、作品
turn:
～歳になる
get fired:
クビになる、解雇される

hire:
～を雇う、雇用する
talented:
才能のある、有能な
run:
～を運営する、経営する

or so:
…かそこら、…ぐらい
things go well:
事がうまく進む、うまくいく

vision:
展望、構想
diverge:
分かれる、分岐する
eventually:
結局は、最終的には

falling out:
仲たがひ、けんか
board of directors:
取締役会、役員会
side with:
～の側につく

publicly:
公然と、おおびらに
focus:
焦点、中心

entire:
全体の、全部の
devastating:
壊滅的な、悲惨な

ふたつ目のお話のテーマは、愛と失意です。

私は幸運でした。人生の早い段階で、自分が何をしたいのかを知ることができたからです。ウォズと私が私の実家のガレージでアップルを立ち上げたのは、私が20歳の時でした。われわれが懸命に働いた結果、10年後のアップルは、ガレージにわれわれふたりしかいなかった状態から、従業員4000人以上を抱える20億ドル企業にまで成長していました。ところが、われわれの最高傑作であるマッキントッシュを発表してからわずか1年後、私が30歳になってから間もなく、私はクビになったのです。どうしたら自分の立ち上げた会社をクビになるなんてことがありうるのでしょうか？

さて、アップルが大きくなってきていたため、われわれは、私が非常に有能だと思った人物を雇い入れ、私と一緒に会社経営の任にあたってもらうことにしました。そして、最初の1年間ほどはうまくいっていたのです。しかし、その後、彼と私の間で今後の展望に開きが生じ始め、最終的には決裂してしまいました。そうなったとき、取締役会は彼の側についてたのです。そのため、私は30歳にして追放を、まさに公然とした追放を受けたのです。大人になって以来ずっと人生の中心にあったものが失われたのですから、それは悲惨なものでした。

失敗しても自分の仕事を愛していた

I really didn't know what to do for a few months. I felt that I had let the previous generation of entrepreneurs down, that I had dropped the baton as it was being passed to me. I met with David Packard and Bob Noyce and tried to apologize for screw in gup so badly. I was a very public failure and I even thought about running away from the Valley.

But something slowly began to dawn on me. I still loved what I did. The turn of events at Apple had not changed that one bit. I'd been rejected but I was still in love. And so I decided to start over.

let...down:

…を失望させる、…の期待を裏切る

previous generation:

前の世代、先行世代

entrepreneur:

起業家

pass the baton:

バトンを渡す、バトンタッチする

David Packard:

デビッド・パッカード ▶パソコン関連企業最大手のひとつであるヒューレット・パッカード (HP) 社の共同創業者。

Bob Noyce:

ボブ・ノイス ▶インテル社の共同創業者のひとりで、「シリコンバレーの父」とも呼ばれる。

try to do:

～しようとする、～しようと試みる

apologize for:

～について謝罪する、～を詫げる

screw up:

台なしにする、めちゃくちゃにする

badly:

ひどく、すごく

public:

周知の、公知の

failure:

失敗者、落第者

run away from:

～から逃げる、逃げ出す

the Valley:

= Silicon Valley シリコンバレー ▶米国カリフォルニア州北部のサンタクララバレー一帯を指す俗称。

dawn on:

～に理解され始める、～にも分かり始める

turn of events:

情勢の変化、事態の展開

not one bit:

少しも～ない、まったく～ない

reject:

～を拒絶する、拒否する

be in love:

恋している、大好きである

start over:

やり直す、出直す

どうしたらよいのか、数カ月の間、私には本当に分かりませんでした。先行世代の起業家たちの期待を裏切ってしまったという思いや、自分にバトンが渡されようとしているときにそのバトンを落としてしまったという思いが、私にはありました。デビッド・パッカードとボブ・ノイスに会って、ひどく台なしにしてしまったことを謝罪しようとしたりもしました。私は失敗者として衆目にさらされていましてから、シリコンバレーから逃げ出すことも考えました。

しかし、私にも何かが徐々に見えできました。私はまだ自分の仕事を愛していました。アップルでの出来事があっても、それは少しも変わっていませんでした。振られてしまったのに、まだ恋し続けていたのです。それで、もう一度やり直そうと決心しました。

アップル追放は人生最良の出来事だった

I didn't see it then, but it turned out that getting fired from Apple was the best thing that could have ever happened to me. The heaviness of being successful was replaced by the lightness of being a beginner again, less sure about everything. It freed me to enter one of the most creative periods in my life.

During the next five years I started a company named NeXT, another company named Pixar and fell in love with an amazing woman who would become my wife. Pixar went on to create the world's first computer-animated feature film, "Toy Story," and is now the most successful animation studio in the world.

In a remarkable turn of events, Apple bought NeXT and I returned to Apple and the technology we developed at NeXT is at the heart of Apple's current renaissance, and Laurene and I have a wonderful family together.

it turns out that:

～であるということが分かる、判明する

happen to:

～に起こる、発生する

heaviness:

重さ、重苦しさ

successful:

成功した、成功を収めた

replace:

～の代わりになる、～に取って代わる

lightness:

軽さ

beginner:

初心者

(be) sure about:

～を確信している、～に確信を持っている

free...to do:

…に自由に～させる、…が自由に～できるようにする

enter a...period:

…の時期に入る、…の時代に突入する

creative:

創造的な、創造力に富んだ

fall in love with:

～と恋に落ちる

amazing:

驚くような、とても素晴らしい

go on to do:

～する道を進む、次に～する

create:

～をつくり出す、創造する

computer-animated:

コンピューターアニメの

feature film:

長編映画

remarkable:

注目すべき、異例の

develop:

～を開発する、開拓する

be at the heart of:

～の核心部分である、中心的なものである

current:

現在の、今の

renaissance:

復興、再生

Laurene:

= Laurene Powell Jobs

▶ 1995年にスティーブ・ジョブズと結婚。

そのときには分からなかったのですが、結局のところ、アップルをクビになったことは、私のこれまでの人生で最良の出来事でした。成功者であることの重苦しさが、もう一度駆け出し者であることの気軽さによって代われ、何事に対しても思い込みが薄れました。そのおかげで私は解放され、人生で最もクリエイティブな時期のひとつに入ることができたのです。

その後の5年の間に、NeXTという会社と、もうひとつのピクサーという会社とを立ち上げ、さらには、後に妻となる素晴らしい女性と恋に落ちたのでした。ピクサーはやがて世界初のコンピューターアニメの長編映画『トイ・ストーリー』を制作し、今では世界で最も成功しているアニメーション・スタジオになっています。

事態の意外な展開により、アップルがNeXTを買収したため、私はアップルに復帰しました。NeXTでわれわれが開発した技術は、現在のアップルの復興劇において中核的な役割を担っています。そして、ローレンと私は一緒に素晴らしい家庭を築いています。

愛せる仕事を見つけよう

I'm pretty sure none of this would have happened if I hadn't been fired from Apple. It was awful-tasting medicine but I guess the patient needed it.

Sometime life...Sometimes life's going to hit you in the head with a brick. Don't lose faith. I'm convinced that the only thing that kept me going was that I loved what I did.

You've got to find what you love, and that is as true for work as it is for your lovers. Your work is going to fill a large part of your life, and the only way to be truly satisfied is to do what you believe is great work, and the only way to do great work is to love what you do.

If you haven't found it yet, keep looking, and don't settle. As with all matters of the heart, you'll know when you find it, and like any great relationship it just gets better and better as the years roll on. So keep looking. Don't settle.

pretty:
かなり、非常に
be sure (that) :
~であると確信している、強く信じている
awful-tasting:
ひどい味の、とても苦い
medicine:
薬、薬物
guess (that) :
~であると推測する、思う
patient:
患者

hit A in the head with B:
Aの頭をBで殴る
brick:
れんが
faith:
信念、確信
be convinced that:
~ということを確認している、~であると思いついでいる

have got to do:
= have to do
be true for:
~にも当てはまる、~にも言えることだ
fill:
(空間などを) うずめる、占める
truly:
本当に、真に
be satisfied:
満足する、満足感を持つ

settle:
落ち着く、安住する
as with:
~と同様に、~のように
matters of the heart:
愛情問題、恋愛
relationship:
関係、恋愛関係
roll on:
(年月が) 過ぎる、経つ

もしも私がアップルをクビになっていなかったら、これらのことは何ひとつ起こらなかっただろうと、私は強く信じています。それはとても苦い薬でしたが、患者にはそれが必要だったのだと、私には思えるのです。

いつか人生には……時として人生には、れんがで頭を殴られるようなこともあります。それでも信念は失わないでください。私が前に進み続けてこれたのは、ひとえに自分の仕事が好きだったおかげだと、私は確信しています。皆さんも、自分は何が好きなのかを知る必要があります。それは恋愛においても仕事においても同じように言えることです。仕事がこれからの皆さんの人生の大きな部分を占めるようになるでしょうが、真の満足を得るための唯一の方法は、素晴らしい仕事だと自分が信じることをやることです。そして、素晴らしい仕事ができるための唯一の方法は、自分の仕事を愛することです。

もしもまだそれを見つけていないのであれば、探し続けてください。もう落ち着く、とはならないでください。あらゆる恋愛がそうであるように、それを見つけたときには自分でも分かるものです。そして、素晴らしい恋愛関係がいつもそうであるように、それも年を重ねるごとにどん

みっつ目は死に関する話

My third story is about death.

When I was 17 I read a quote that went something like “If you live each day as if it was your last, someday you’ll most certainly be right.” It made an impression on me, and since then, for the past 33 years, I have looked in the mirror every morning and asked myself, “If today were the last day of my life, would I want to do what I am about to do today?” And whenever the answer has been “no” for too many days in a row, I know I need to change something.

Remembering that I’ll be dead soon is the most important tool I’ve ever encountered to help me make the big choices in life, because almost everything— all external expectations, all pride, all fear of embarrassment or failure—these

quote:
引用文
go:
～と述べる、～と書いてある
someday:
いつか、そのうち
certainly:
確実に、間違いなく
make an impression on:
～に感銘を与える、強い印象を与える
since then:
それ以来、それ以後
be about to do:
まさに～しようとしている、～しかかっている
whenever:
～するときはいつでも、いつ～しようとも
in a row:
連続して、続けて

remember that:
～であることを覚えておく、心に留めておく
encounter:
～に出くわす、遭遇する
external:
外の、外部からの
expectation:
期待、予想
embarrassment:
きまり悪さ、困惑

探し続けてください。落ち着いたりしてはいけません。

みっつ目のお話のテーマは、死です。

17歳のころ、「その日が人生の最後であるかのように毎日を生きれば、いつかその通りになることはほぼ間違いない」というような記述が引用されているのを読みました。それに感銘を受けた私は、それから33年間、毎朝鏡をのぞき込んで自問してきました、「もしも今日が人生最後の日だとしたら、今日やろうとしていることをやりたいと思うだろうか」と。その答えが「ノー」の日があまり多く続く場合には、何かを変える必要があるのだと、必ず分かります。

自分は今すぐ死ぬのだと意識しておくことは、私が人生の重大な選択をする際に役立つツールとして偶然に手にしたものの中でも、最も重要です。なぜなら、ほとんどすべてのこと——いろいろな外部からの期待や、自分のあらゆるプライド、混乱や失敗に対するさまざまな恐れ——こ

things just fall away in the face of death, leaving only what is truly important. Remembering that you are going to die is the best way I know to avoid the trap of thinking you have something to lose. You are already naked. There is no reason to follow your heart.

がんで死の宣告を受けた

About a year ago, I was diagnosed with cancer. I had a scan at 7:30 in the morning and it clearly showed a tumor on my pancreas. I didn't even know what a pancreas was. The doctors told me this was almost certainly a type of cancer that is incurable, and that I should expect to live no longer than three to six months.

My doctor advised me to go home and get my affairs in order, which is doctors' code for "prepare to die." It means to try and tell your kids everything you thought you'd have the next 10 years to tell them, in just a few months. It means to make sure everything is buttoned up so that it will be as easy as possible for your family. It means to say your goodbyes.

fall away:
なくなる、消えさせる
in the face of:
～を目の前にして、～に直面して
leave:
～を残す、そのまましておく
avoid:
～を避ける、回避する
trap:
わな、落とし穴
naked:
裸の、何も身に着けていない

diagnose A with B:
AをBと診断する
cancer:
がん、悪性腫瘍(しゅよう)
have a scan:
スキャンを受ける
clearly:
はっきりと、明確に
tumor:
腫瘍
pancreas:
すい臓
incurable:
不治の、治療不能の
expect to do:
～することを予期する、～するつもりでいる
no longer than:
～以下、長くても～

advise...to do:
…に～するよう助言する、～することを勧める
get...in order:
…を整える、整理する
affairs:
私事、身の事柄
code for:
～を意味する暗号、～の特殊な言い換え
prepare to do:
～するのに備える、～することを覚悟する
try and do:
～しようとする、～しようと努力する
be buttoned up:
整っている
say one's goodbyes:
さよならを言う、別れを告げる

ういったものは、死に直面すると消えてなくなり、真に重要なことだけが残されるからです。自分も死に向かっているのだと意識することは、自分には失うものがあるという思考の落とし穴を避けるための策として、私の知る範囲では最善です。皆さんはすでに何も身に着けていない状態なのです。自分の心に従わない理由はありません。

1年ほど前、私はがんと診断されました。朝の7時半にスキャンを受けたところ、すい臓にはっきりとした腫瘍が見られたのです。私は、すい臓が何かも知りませんでした。医師たちが言うには、これはほぼ間違いなく治療不能なタイプのがんであり、長くても3カ月から6カ月しか生きられないと思いなさい、ということでした。

主治医の私に対するアドバイスは、家に帰って身辺整理しなさいというものでしたが、これは「死を覚悟しなさい」ということの医者流の言い回しなのです。つまり、今後10年かけて子どもたちに伝えようと思っていたことがあるなら、わずか数カ月のうちにそれを全部伝えるように努力しなさい、ということです。つまり、家族ができるだけ楽に対処できるように、準備万端しっかり怠りないようにしておけ、ということですから。つまり、お別れのあいさつをし

死に近づいた経験から言えること

I lived with that diagnosis all day. Later that evening I had a biopsy where they stuck an endoscope down my throat, through my stomach into my intestines, put a needle into my pancreas and got a few cells from the tumor. I was sedated but my wife, who was there, told me that when they viewed the cells under a microscope, the doctor started crying, because it turned out to be a very rare form of pancreatic cancer that is curable with surgery. I had the surgery and, thankfully, I am fine now.

This was the closest I've been to facing death, and I hope it's the closest I get for a few more decades. Having lived through it, I can now say this to you with a bit more certainty than when death was a useful but purely intellectual concept:

diagnosis:
診断、診断結果
biopsy:
生検、生体組織検査
stick A down B:
AをBに差し込む、突っ込む
endoscope:
内視鏡
stomach:
胃
intestines:
腸
put A into B:
AをBに入れる、突っ込む
needle:
針
cell:
細胞
sedate:
～に鎮静剤を投与する、～を鎮静状態にする
view...under a microscope:
…を顕微鏡で観察する、調べる
it turns out to be:
～であることが分かる
rare:
まれな、めったにない
a form of:
～の一形態、～の一種
pancreatic:
すい臓の
curable:
治せる、治療可能な
surgery:
手術、外科手術
thankfully:
ありがたいことに
face:
～に直面する
decade:
10年
live through:
～を乗り切る、乗り越える
a bit:
少し、ちょっと
certainty:
確実性、確信
useful:
役に立つ、有益な
intellectual:
知的な、理知的な
concept:
概念、観念

る、ということなのです。

私はその診断結果を抱えたまま、まる1日を過ごしました。その日の夕方遅くに生検を受けましたが、その際には内視鏡がのどから入れられ、胃を通過して腸へと送られましたし、すい臓に針が刺されて、腫瘍の細胞がいくつか採取されました。私は鎮静剤でもうろうとしていたのですが、立ち会っていた妻に聞いたところでは、顕微鏡で細胞を見たとき、医者が叫び出したのだそうです。なぜなら、それは非常に珍しいタイプのすい臓がんで、手術で治せると判明したからです。私は手術を受け、ありがたいことに、今は元気です。

これが私の人生の中で最も近くで死に直面した経験です。願わくば、この先何十年かはこれ以上近くならないようにしたいものです。こうした経験を乗り越えた今、死というものが有益ではあるが純粋に知的概念でしかなかったころよりも、少しだけ強い確信を持って、皆さんに次のように申し上げることができそうです。

自分の心と直感に従う勇気を持って

No one wants to die, even people who want to go to Heaven don't want to die to get there, and yet, death is the destination we all share. No one has ever escaped it. And that is as it should be, because death is very likely the single best invention of life. It's life's change agent; it clears out the old to make way for the new.

Right now, the new is you. But someday, not too long from now, you will gradually become the old and be cleared away. Sorry to be so dramatic, but it's quite true.

Your time is limited, so don't waste it living someone else's life. Don't be trapped by dogma, which is living with the results of other people's thinking. Don't let the noise of others' opinions drown out your own inner voice, and most important, have the courage to follow your heart and intuition. They somehow already know what you truly want to become. Everything else is secondary.

Heaven:

天国

destination:

目的地、行き先

share:

~を共有する、共にする

escape:

~を免れる、~から逃げる

very likely:

高い可能性で、十中八九

invention:

発明

agent:

動作の主体、行為の担い手

clear out:

~を追い出す、立ち退かせる

make way for:

~に道を譲る、~の進路を開く

right now:

今は、現時点では

gradually:

徐々に、次第に

clear away:

~を排除する、一掃する

dramatic:

劇的な、ドラマチックな

quite:

まったく、完全に

limited:

有限な、限られた

waste:

~を無駄にする、浪費する

trap:

~をわなにかける、わなで捕らえる

dogma:

教条的な考え、定説的な見方

result:

結果、成果

opinion:

意見、見解

drown out:

~をかき消す、聞き取れなくす

inner voice:

内なる声、心の声

intuition:

直感、直感力

secondary:

二次的な、あまり重要でない

だれでも死にたくはありません。たとえ天国に行きたいと思っている人でも、そこへ行くために死にたいとは思いません。しかし、死というものは、われわれ全員共通の終着点なのです。それから逃れた者は、これまでだれもいません。そして、それはそうあるべきものなのです。なぜなら、死はほぼ間違いなく、生命に関する唯一にして最高の発明だからです。それは生命の変化の担い手です。古いものを排除し、新しいもののために道を開きます。

今ここでは、新しいものは皆さんです。しかし、そのうち、つまり今からそう遠くない時期に、皆さんも徐々に古いものとなり、排除されることとなります。かなり劇的でお気の毒ですが、これはまったくの真実です。

皆さんの時間は限られていますから、他人の人生を生きて時間を無駄にしてはいけません。ドグマにとらわれないでください。それでは、他の人たちの思考の結果に従って生きることになります。他人の意見という雑音によって自分の内なる声がかき消されてしまわないようにしてください。そして、最も重要なことですが、自分の心と直感に従う勇気を持ってください。あなたの心と直感、あなたが本当は何になりたいのかを、どうしてだかすでに知っているのです。他のことはすべて二の

『全地球カタログ』に触れて

When I was young, there was an amazing publication called *The Whole Earth Catalogue*, which was one of the bibles of my generation. It was created by a fellow named Stuart Brand not far from here in Menlo Park, and he brought it to life with his poetic touch.

This was in the late '60s, before personal computers and desktop publishing, so it was all made with typewriters, scissors, and Polaroid cameras. It was sort of like Google in paperback form 35 years before Google came along. It was idealistic, overflowing with neat tools and great notions.

ハングリーであり続ける、愚か者であり続ける

Stuart and his team put out several issues of *The Whole Earth Catalogue*, and then when it had run its course, they put out a final issue. It was the mid-1970s and I was your age.

publication:
出版物
bible:
必読書、権威ある書物
fellow:
男、やつ
bring...to life:
…に命を吹き込む、…を生き生きとしたものにする
poetic:
詩的な

desktop publishing:
デスクトップパブリッシング、DTP
scissors:
はさみ
sort of:
多少、いくらか
in paperback form:
ペーパーバック形式の、ペーパーバック版の
come along:
生じる、現れる
idealistic:
理想主義の、理想家的な
overflow with:
～でいっぱいになる、～に満ちあふれている
neat:
素晴らしい、かっこいい
tool:
道具、ツール
notion:
考え、観念

put out:
～を出版する、発行する
several:
いくつかの
issue:
(定期刊行物の)号
run one's course:
一巡する、ひと通り終える

次です。

私が若いころ、『全地球カタログ』という素晴らしい本があって、私の世代にとってはバイブルのひとつでした。それをつくったのは、ここからそう遠くないメンローパークに住んでいたスチュアート・ブランドという人物です。彼は、その詩的なセンスによって、紙面に命を吹き込んでいました。

それは1960年代の終盤のことで、すから、パソコンやデスクトップパブリッシングはまだ存在せず、タイプライターとはさみとポラロイドカメラですべてがつくられました。それは、グーグルが登場してくる35年前の、ペーパーバック版グーグルといった感じのものでした。理想主義的で、かっこいいツールや素晴らしい考えに満ちあふれていました。

スチュアートと彼のチームは、この『全地球カタログ』を何号か出しましたが、その後、ひと通りのことをやり終えた時点で、最終号を刊行しました。1970年代半ばのことですから、私は今の皆さんくらいの年齢でした。

On the back cover of their final issue was a photograph of an early morning country road, the kind you might find yourself hitchhiking on if you were so adventurous. Beneath it were the words, “Stay hungry, stay foolish.” It was their farewell message as they signed off. “Stay hungry, stay foolish.” And I have always wished that for myself, and now, as you graduate to begin anew, I wish that for you. Stay hungry, stay foolish.

Thank you all, very much.

Aired on October 5, 2011

back cover:
裏表紙
country road:
田舎道
kind:
種類
find oneself doing:
つい~してしまう、思わず~
してしまう
hitchhike:
ヒッチハイクする
adventurous:
冒険好きな、冒険心のある
beneath:
下に、下方に
farewell message:
別れの言葉、告別の辞
sign off:
終了する、締めくくる
wish:
~を望む、祈念する
anew:
改めて、新たに

最終号の裏表紙には、早朝の田舎道の写真が載っていました。かなり冒険好きな人なら、ここでヒッチハイクしていてもおかしくないような種類の道です。写真の下にはこんな言葉が書かれていました。「ハングリーであり続ける、愚か者であり続ける」。それが、彼らが終刊するにあたっての、お別れのメッセージでした。「ハングリーであり続ける、愚か者であり続ける」。そして、私はいつも、自分自身そうありたいと願い続けてきました。そして今、皆さんが卒業して新たな人生に踏み出す際にも、皆さんがそうであってほしいと願います。ハングリーであり続けてください、愚か者であり続けてください。

ご清聴ありがとうございました。

(2011年10月5日放送)(訳 編集部)